

令和8（2026）年度

第6学年

学習の内容と評価



東京学芸大学附属国際中等教育学校

教科名	国語科	科目名	論理国語		単位数
学年	6年		Japanese Language (Logic)		2
(後期課程科目のみ)		学校設定科目		必履修科目	選択必履修科目

本科目の目標／伸ばしたい力

- 実社会に必要となる国語の知識や技能を身につける。
- 論理的、批判的に考える力伸ばし、創造的に考える力を養う。
- 他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりする力をつける。
- 生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させる姿勢を身につける。
- 言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作品やテキストを深く読解・理解するための総合的な知識を獲得すること。 ・ 表現の基盤となるスキルを獲得すること。 * 上記の獲得や理解を授業中の活動・定期試験・課題等を用いて評価します。 	小テスト、期末試験など
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・ ジャンルや作品の種類を踏まえ、文章の構成や論理展開、表現の特色について評価し、作品の価値について考察すること。 ・ 作品や文章について内容を分析・解釈し、自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりし、それらを自分の言葉で表現すること。 * 上記についての力を授業中の活動・定期試験・課題等を用いて評価します。 	レポート、小論文など
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 言葉や言語文化がもつ価値への認識を自ら深めようとしている。 ・ 作品に探究的にアプローチしようとしている。 * 上記について、姿勢・態度を「知識・技能」・「思考・判断・表現」の観点も踏まえた上で、学習への取り組み・課題・振り返りの記述を用いて評価します。 	学習への取り組み、振り返りの記述等

使用教材

教科書： 『論理国語』（大修館書店）

副教材： 『入試頻出漢字＋現代文重要語彙 TOP2500』（いいずな書店）、『カラー版新国語便覧』（第一学習社）

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。

4月	単元① 自己と他者
5月	単元② コミュニケーションの手段
6月～7月	単元③ メディア・言語の探究
9月	単元④ 政治と社会
10月	単元⑤ 存在への問い
11月	単元⑥ 環境へのまなざし
12～1月	単元⑦ 歴史と時間

備考

論理国語は5年と6年で2単位ずつ分割で履修します。両方履修して、論理国語を履修したことになります。

教科名	国語科	科目名	文学国語		単位数
学年	6年		Japanese Language (Literature)		2
(後期課程科目のみ)		学校設定科目		必履修科目	選択必履修科目

本科目の目標／伸ばしたい力

- 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能
- 我が国の言語文化に対する理解を深める力
- 深く共感したり豊かに想像したりする力、創造的に考える力、他者との関わりの中で伝え合う力
- 言葉がもつ価値への認識を深める力
- 言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作品やテキストを深く読解・理解するための総合的な知識を獲得すること。 ・ 表現の基盤となるスキルを獲得すること。 * 上記の獲得や理解を授業中の活動・定期試験・課題等を用いて評価します。 	ワークシート、レポート、発表、小論文、期末考査
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・ ジャンルや作品の種類を踏まえ、文章の構成や論理展開、表現の特色について評価し、作品の価値について考察すること。 ・ 作品や文章について内容を分析・解釈し、自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりし、それらを自分の言葉で表現すること。 * 上記についての力を授業中の活動・定期試験・課題等を用いて評価します。 	ワークシート、レポート、発表、小論文、期末考査
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 言葉や言語文化がもつ価値への認識を自ら深めようとしている。 ・ 作品に探究的にアプローチしようとしている。 * 上記について、姿勢・態度を「知識・技能」・「思考・判断・表現」の観点も踏まえた上で、学習への取り組み・課題・振り返りの記述を用いて評価します。 	ワークシート、レポート、発表、ディスカッション、小論文

使用教材

教科書： 東京書籍「文学国語」 文国 701

副教材： 『新版五訂カラー版新国語便覧』（第一学習社）

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。

4月～6月	文学表現の可能性：文学表現はどのような独自の特徴と可能性があるのか。
7月	コミュニケーションと文学：詩・俳句・短歌はどのようにコミュニケーションの手段となるのか
9月	美意識の形成：美意識はどのように評価されてきたのか。
9～10月	個人的な経験と文学：個人的な経験は文学を通してどのように共有されるのか
11月	翻案とメディア：物語の翻案は社会の変化や作者の解釈がどのように現れるのか。
12月～1月	グローバル化と言語文化：古代の漢文や日本の古文がどのように現代のグローバルな言語文化や思想として生きるのか。

備考

文学国語は5年と6年で2単位ずつ分割で履修します。両方履修して、文学国語を履修したことになります。

教科名	国語科	科目名	古典探究		単位数
学年	6年		Advanced Classics		2
(後期課程科目のみ)		学校設定科目		必履修科目	選択必履修科目

本科目の目標／伸ばしたい力

- 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、日本や世界の伝統的な言語文化を深く理解する。
- 時代背景や社会背景を考えながら、他者・古人の考えや思いを言語表現を通して、深く理解する。
- 古典を通じた先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりする。
- 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ、言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作品やテキストを深く読解・理解するための総合的な知識を獲得すること。 ・ 表現の基盤となるスキルを獲得すること。 	小テスト ワークシート
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・ ジャンルや作品の種類を踏まえ、文章の構成や論理展開、表現の特色について評価し、作品の価値について考察すること。 ・ 作品や文章について内容を分析・解釈し、自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりし、それらを自分の言葉で表現すること。 	期末テスト 記述課題
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 言葉や言語文化がもつ価値への認識を自ら深めようとしている。 ・ 作品に探究的にアプローチしようとしている。 	レポート 発表 記述課題

使用教材

教科書： 『古典探究 古文編』『古典探究 漢文編』（大修館書店）
副教材： 『カラー版新国語便覧』（第一学習社）『新修古典文法二訂版』（京都書房）『例文による漢文の習得』（浜島書店）

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。

4～7月	<p>「詩文の価値」「物語の構造」「思想と哲学」 物語の構造はどのような役割や効果を持つかを学ぶ。 表現は社会とのかかわりの中でどのような意味・価値を持つかを考える。 【古文】和歌(歌合)・歌論・物語全般・擬古物語 【漢文】漢詩(古詩・唐詩・辞・賦)・思想</p>
9～12月	<p>「物語の展開」「旅と文学」 物語の語り手の違いは、どのような表現効果を生み出すかを学ぶ。 古典の旅はどのように語られるかを学ぶ。 【古文】物語全般・日記・俳文ほか 【漢文】志怪小説・寓話・随筆</p>
1月	<p>「古文・漢文と近現代の関わり」 古典の後世に与えた影響を考察する。 【古文】複数の時代の作品を同一テーマなど 【漢文】『史記』列伝・唐宋八大家の文章など</p>

備考

古典探究は5年と6年で2単位ずつ分割で履修します。両方履修して、古典探究を履修したことになります。

教科名	国語科	科目名	日本語 A 文学		単位数
学年	6年 DP		DP Japanese A literature HL		2
(後期課程科目のみ)		学校設定科目	○	必履修科目	選択必履修科目

本科目の目標／伸ばしたい力

1. さまざまな媒体や形式、異なる時代、スタイル（文体）、文化からの多様なテキストに触れる。
2. 話す、読む、書く、見る、発表する、およびパフォーマンスのスキルを伸ばす。
3. 解釈や分析、評価のスキルを伸ばす。
4. テキストのフォーマルで美的な性質への感性を磨き、またそれらがどう多様な応答や複数の意味をもたらすのかを鑑賞できるようになる。
5. テキストと多様なものの見方、文化的文脈、地域とグローバルな問題との関わりについて理解を深め、またそれらがどう多様な応答や複数の意味をもたらすのかを鑑賞できるようになる。
6. 「言語と文学」と他の教科の関係性への理解を深める。
7. 自信をもち、創造的な方法でコミュニケーションをとり、協働する。
8. 言語と文学に対して、生涯にわたって関心と喜びをもつように促す。

DP 評価規準と評価方法

A：知識、理解、解釈	<ul style="list-style-type: none"> ・作品やテキストについて、理解する力を身につける。 ・作品やテキストについての知識と理解を使用して、グローバルな問題に関する結論を導き出す。 ・作品やテキストを参照し、裏づけとなる内容をもとに考えを深める。 	論述
B：分析と評価	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストの特徴や作者の選択に着目し、それらがどのように意味を形成するか分析する力を身につける。 ・言語、技法、スタイルの選択に着目し、他の作品との比較を通して、それらの選択の持つ効果を分析する力を身につける。 	論述
C：焦点と構成	<ul style="list-style-type: none"> ・自身の考えに一貫性を持たせ、焦点を絞って組み立て、効果的に構成する力を身につける。 	論述
D：言語	<ul style="list-style-type: none"> ・学年相当の語彙・文法知識を身につけ、適切に運用する力を身につける。 ・正確かつ明確であり、より多様な言葉遣いを身につける。 	論述

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法

基本的に、DP の評価物を MEXT 評価規準でも評価します。MEXT 評価規準のみで評価する課題等はありません。

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・作品やテキストを深く読解・理解するための総合的な知識を獲得すること。 ・表現の基盤となるスキルを獲得すること。 *上記の獲得や理解を授業中の活動・定期試験・課題等を用いて評価します。 	論述
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・ジャンルや作品の種類を踏まえ、文章の構成や論理展開、表現の特色について評価し、作品の価値について考察すること。 ・作品や文章について内容を分析・解釈し、自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりし、それらを自分の言葉で表現すること。 *上記についての力を授業中の活動・定期試験・課題等を用いて評価します。 	論述
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉や言語文化がもつ価値への認識を自ら深めようと 	発表、ふりかえり、論述

	<p>している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品に探究的にアプローチしようとしている。 <p>* 上記について、姿勢・態度を「知識・技能」・「思考・判断・表現」の観点も踏まえた上で、学習への取り組み・課題・振り返りの記述を用いて評価します。</p>	
使用教材		
<p>教科書： 『高村光太郎詩集』『近代能楽集』『源氏物語』『能楽論集』『生物と無生物のあいだ』『滑走路』『去来抄』『史記』</p> <p>副教材： * 以下の5年で扱った以下の作品も、個人口述、最終試験の演習で用いる 『地獄変/藪の中』『セールスマンの死』『クララとお日さま』『ハイファに戻って/』『カクテル・パーティ』 『少年が来る』</p>		
学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。		
4月	『高村光太郎詩集』	
5月	『J R上野駅公園口』	
6月	『近代能楽集』 内部評価（個人口述）、MOCKの準備	
7月	『能楽論集』 内部評価（個人口述）、MOCKの準備	
9月	『源氏物語』 最終試験準備	
10月	『生物と無生物のあいだ』 最終試験	
10～11月	最終試験 俳句・短歌	
12～1月	和歌・漢文	
備考		
DPでは、5年及び6年次で開講される「日本語A：文学」を5単位履修していることが卒業要件になっています。		

2026/3/25 更新

教科名	地理歴史科	科目名	世界史探究		単位数
学年	6年		Advanced World History		4
(後期課程科目のみ)		学校設定科目		必履修科目	選択必履修科目

本科目の目標／伸ばしたい力

先史時代から 21 世紀までの世界の諸地域における変遷と展開の過程を学習し、5 年次に〈歴史総合〉で学習した近現代の時代とあわせて、世界の歴史に対する深い理解ができるようにします。また、現代の諸課題について様々な視点や立場から歴史的背景をふまえて考察できるような歴史的思考力を培うことを目標とします。歴史事象の関連性や因果関係を重視した授業を展開します。

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法

知識・技能	社会科・地理歴史科・公民科に関する知識の獲得と、技能の習得を評価します。	授業中の学習活動・定期試験・課題等
思考・判断・表現	社会的な見方・考え方を働かせ、考察したり表現したりできているかを評価します。	授業中の学習活動・定期試験・課題等
主体的に学習に取り組む態度	社会科・地理歴史科・公民科を探究する姿勢を「知識・技能」、「思考・判断・表現」の観点を踏まえた上で、振り返りなどの記述から総合的に評価します。	振り替えシート・課題・学習状況等

使用教材

教科書： 世界史探究（東京書籍）

副教材： NEW STAGE 世界史詳覧（浜島書店）

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。

1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ○諸地域の歴史的特質 古代における各地域世界の形成をたどり、それぞれの歴史的特質について探り、古代文明が現代の社会にどのような影響をおよぼしているか考えていきます。 ○諸地域の交流と再編 諸地域の交流の広がりや再編が進む中で、地球規模で諸地域がどのようにつながっていったのかを考えていきます。
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ○諸地域の交流と再編 諸地域の交流の広がりや再編が進む中で、地球規模で諸地域がどのようにつながっていったのかを考えていきます。 ○一体化していく世界 諸地域の統合の進展と変容が進む中で、地球季語での諸地域のつながりがどのように広がっていったのかを考えていきます。 ○グローバル化と地球的課題 多面的な相互依存関係を深める現代社会の特質を考えていきます。
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ○地球世界の課題と探究 これまでの学習を踏まえて、持続可能な社会の実現を視野に入れて、主題を設定し、諸資料を活用して探究活動を行います。

備考

詳細については、第 1 回授業で配布する資料を参照してください。

教科名	地理歴史科	科目名	日本史探究		単位数
学年	6年		Advanced Japanese History		4
(後期課程科目のみ)		学校設定科目		必履修科目	

本科目の目標／伸ばしたい力

日本の歴史について通史的に概観しながら、諸地域や世界とのつながりを理解し、様々な資料・史料の読解をもとに、その時々国家体制や社会の仕組みについて考察していく力を伸ばしていきます。また歴史的な思考を育み、歴史事象の意義について、互いに意見をかわし、議論を深めていく力を養うことを目的とします。思考力とともに、論理的にアウトプット・表現できる力（エッセイ・小論文等の論述等）も身につけていきます。

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法

知識・技能	社会科・地理歴史科・公民科に関する知識の獲得と、技能の習得を授業中の学習活動・定期試験・課題等から評価します。	中間試験 期末試験
思考・判断・表現	社会的な見方・考え方を働かせ、考察したり表現したりできているかを授業中の学習活動・定期試験・課題等から評価します。	中間試験 期末試験
主体的に学習に取り組む態度	社会科・地理歴史科・公民科を探究する姿勢を「知識・技能」、「思考・判断・表現」の観点を踏まえた上で、振り返りなどの記述から総合的に評価します。	振り返りシート

使用教材

教科書： 『日本史探究』東京書籍

副教材： 『詳述日本史史料集』実教出版、『図説日本史通覧』実教出版

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。

4月～5月	日本歴史における先史時代から古代にかけての政治や社会の動向について、史資料をもとに理解し考察していきます。
6月～7月	日本歴史における中世から近世初期にかけての政治や社会の動向について、史資料をもとに理解し考察していきます。
9月～10月	日本歴史における近世中期から近代にかけての政治や社会の動向について、史資料をもとに理解し考察していきます。
11月～12月	日本歴史における近現代史の政治や社会の動向について、史資料をもとに理解し考察していきます。

備考

教科名	地理歴史科	科目名	地理探究	単位数
学年	6年		Advanced Geography	4
(後期課程科目のみ)		学校設定科目	必履修科目	選択必履修科目

本科目の目標／伸ばしたい力

本校の地理歴史科では4年次および6年次の2年間で地理を学習します。そのうち、6年次では地理学における「系統地理」分野と「地誌」分野の内容を、以下の3つを目標とし学習を進めます。

- 世界の様々な地理的事象や地域の特徴を理解することで、幅広い知識と教養を身につける。
- 世界と私たちとの様々な結びつきを見いだす能力を身につける。
- 様々な視点からものごとを考える能力を身につける。

地理的な考え方を身につけるとともに、論理的にアウトプットできる力（スピーチ・エッセイ・小論文等の論述等）を身につけます。

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法

知識・技能	地理に関する知識の獲得と、技能の習得を授業中の学習活動・試験・課題等から評価します。	定期試験 評価課題
思考・判断・表現	地理的な見方・考え方を働かせ、考察したり表現したりできているかを授業中の学習活動・試験・課題等から評価します。	定期試験 評価課題
主体的に学習に取り組む態度	地理を探究する姿勢を「知識・技能」、「思考・判断・表現」の観点を踏まえた上で、振り返りなどの記述から総合的に評価します。授業中の活動、エッセイ、課題等への取組みを総合的に判断して評価します。	振り返りシート 授業・評価課題・定期試験への取組み など

使用教材

教科書： 新詳地理探究（帝国書院）・新詳高等地図（帝国書院・4年次に使用したもの）

副教材： 新詳地理資料 COMPLETE2024（帝国書院・4年次に使用したもの）

データブック・オブ・ザ・ワールド 2026（二宮書店）

※地図帳および資料集は4年次に購入したものを引き続き使用し、必要な副教材は追加購入します。

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。

1学期	○自然環境	◆地形（大地形分類、小地形 [海岸地形ほか]	◆植生と土壌
	○資源と産業	◆農林水産業 [第1次産業]	◆鉱工業 [第2次産業]（発達過程、立地と変化）
	○地誌	◆アジア（東アジア、東南アジア、南アジア、西アジア・中央アジア）	◆アフリカ
2・3学期	○資源と産業	◆第3次産業（観光業、商業、交通・通信）	
	○民族・宗教	◆民族と宗教	◆民族・領土問題
	○地誌	◆ヨーロッパ	◆ロシアと周辺諸国
		◆ラテンアメリカ	◆オセアニア
	○村落と都市	◆村落（集落の立地と発達、村落の形態）	
		◆都市（都市の立地と発達、都市機能、都市の内部構造、都市問題）	

※学習内容の順序は諸般の事情によって、変更されることがあります。

備考

地理総合の授業で用いた「地図帳」や「資料集」は6年次に開講される「地理探究」でも使用します。地理探究を履修する生徒は各自で所在を確認し、準備しておいてください。

教科名	地理歴史科	科目名	世界史特講			単位数
学年	6年		World History Seminar			2
(後期課程科目のみ)		学校設定科目	○	必履修科目		選択必履修科目

本科目の目標／伸ばしたい力

19～20世紀を中心とした歴史総合の内容について、5年次に〈歴史総合〉で学習した内容を確認しつつ、より発展的な内容を取り上げて理解を深めていきます。また、〈世界史探究〉で学習する内容ともあわせて、現代の諸課題のうち世界史的背景をふまえて考察すべきテーマをいくつか取り上げ、歴史的思考力を培うことを目標とします。歴史事象の関連性や因果関係の方を重視した授業を展開します。

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法

知識・技能	社会科・地理歴史科・公民科に関する知識の獲得と、技能の習得を授業中の学習活動・定期試験・課題等から評価します。	定期考査
思考・判断・表現	社会的な見方・考え方を働かせ、考察したり表現したりできているかを授業中の学習活動・定期試験・課題等から評価します。	定期考査・課題
主体的に学習に取り組む態度	社会科・地理歴史科・公民科を探究する姿勢を「知識・技能」、「思考・判断・表現」の観点を踏まえた上で、振り返りなどの記述から総合的に評価します。	振り返りシート

使用教材

教科書： 世界史探究（東京書籍・「世界史探究」と同じもの）

副教材： ニューステージ世界史詳覧（浜島書店・「世界史探究」と同じもの）

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。

1学期	18世紀・19世紀の世界と日本
2学期	20世紀前半の世界
3学期	20世紀後半以降の世界

備考

履修条件：世界史探究の履修を必須の条件とします。

教科名	地理歴史科	科目名	日本史特講			単位数
学年	6年		Japanese History Seminar			2
(後期課程科目のみ)		学校設定科目	○	必履修科目		選択必履修科目

本科目の目標／伸ばしたい力

歴史総合・日本史探究で得た知識や読解力、思考力を統合して、歴史事象を包括的に把握する力、記述する力を養います。問題演習も予定していますが、知識の暗記にとどまらない形になります。

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法

知識・技能	社会科・地理歴史科・公民科に関する知識の獲得と、技能の習得を授業中の学習活動・定期試験・課題等から評価します。	中間試験 期末試験 レポート
思考・判断・表現	社会的な見方・考え方を働かせ、考察したり表現したりできているかを授業中の学習活動・定期試験・課題等から評価します。	中間試験 期末試験 レポート
主体的に学習に取り組む態度	社会科・地理歴史科・公民科を探究する姿勢を「知識・技能」、「思考・判断・表現」の観点を踏まえた上で、振り返りなどの記述から総合的に評価します。授業中の活動、エッセイ、課題等への取組みを総合的に判断して評価します。	レポート 振り返り

使用教材

教科書： 『日本史探究』東京書籍

副教材： 『詳述日本史史料集』実教出版、『図説日本史通覧』実教出版

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。

1学期	日本歴史におけるテーマ史(地域・人物・文化)などを学習しつつ、個々人の歴史的視座を醸成するための演習を行います。
2学期	日本歴史におけるテーマ史(地域・人物・文化)などを学習しつつ、個々人の歴史的視座を醸成するための演習を行います。加えて、大学入試に向けた対策にも取り組んでいきます。
3学期	大学入試に向けた演習を行います。

備考

履修条件：日本史探究を履修することを必須の履修条件とします。

教科名	地理歴史科	科目名	地理特講			単位数
学年	6年		Geography Seminar			2
(後期課程科目のみ)		学校設定科目	○	必履修科目		選択必履修科目

本科目の目標／伸ばしたい力

地理総合・地理探究で得た知識や地理的思考力を駆使して、地理的事象と関連した諸課題について、分析・考察し的確にアウトプットできるようにトレーニングしていきます。図表や統計の読み取り、レジュメ作成など基礎的な能力を身につけながら、地理的事象を包括的に把握する力、発信する力を養います。
 大学入試を意識して演習なども予定していますが、知識の暗記にとどまらない形になります。

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法

知識・技能	地理に関する知識の獲得と、技能の習得を授業中の学習活動・試験・課題等から評価します。	評価課題
思考・判断・表現	地理的な見方・考え方を働かせ、考察したり表現したりできているかを授業中の学習活動・試験・課題等から評価します。	評価課題
主体的に学習に取り組む態度	地理を探究する姿勢を「知識・技能」、「思考・判断・表現」の観点を踏まえた上で、振り返りなどの記述から総合的に評価します。授業中の活動、エッセイ、課題等への取組みを総合的に判断して評価します。	振り返りシート 授業・評価課題への取組み

使用教材

教科書： 必要に応じて、地理探究で使用しているものを使います

副教材： 必要に応じて、地理探究で使用しているものを使います

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。

1学期	◆地理的思考力を用いた課題発見・解決トレーニング ◆系統地理分野における分析・考察トレーニング
2・3学期	◆読図トレーニング ◆地誌分野における分析・考察トレーニング ※詳細な学習内容については、履修者と相談しながら調整します。

備考

地理探究で扱う内容を活用していくことが求められるため、6年次において地理探究を履修していることが望ましい。

教科名	地理歴史科	科目名	歴史	単位数
学年	6年 DP		DP History HL	5
(後期課程科目のみ)		学校設定科目	○	必履修科目
				選択必履修科目

本科目の目標／伸ばしたい力

DP 歴史では、世界史を古代から現代まで広く取り上げるのではなく、いくつかのテーマを選んで深く探究していくこととなります。本校では、20 世紀の世界史に関わるテーマを取り上げます。また、HL 選択項目としては四つの地域世界のうちヨーロッパ世界を中心に学習していきます。様々な史資料の分析、調査、プレゼンテーション、議論、エッセイライティングを通して歴史的思考力を高めていきます。

DP 評価規準と評価方法

A：知識と理解	<ul style="list-style-type: none"> ・詳細、適切、正確な歴史の知識がある。・歴史的概念と歴史的文脈を理解している。 ・歴史の文献に対する理解を示す。(内部評価と「試験問題1」) 	<p>①各学期に実施するテスト… DP 最終試験の形式に準拠したテスト。Paper 1 は資料分析とエッセイライティング、Paper 2 と Paper 3 はエッセイライティングです。</p> <p>②模試… 6 年次 8 月後半に DP 最終試験の形式に則って実施します。</p> <p>③IA (内部評価) の歴史研究の Final Draft (最終稿)</p> <p>④その他、学習状況全般:</p>
B：応用と分析	<ul style="list-style-type: none"> ・明瞭で論理的な議論を組み立てる。・関連性の高い歴史の知識を使用して、分析を効果的に裏づける。 ・さまざまな文献を分析し、解釈する。(内部評価と「試験問題1」) 	
C：知識の統合と評価	<ul style="list-style-type: none"> ・証拠と分析を統合して、論理的な議論を構築する。 ・歴史上の問題や出来事についての異なる視点を評価して、議論に有効に統合する。 ・歴史的根拠として文献を評価し、その価値と限界を認識する。(内部評価と「試験問題1」) ・関連する文献から得た情報を統合する。(内部評価と「試験問題1」) 	
D：適切なスキルの活用と応用	<ul style="list-style-type: none"> ・設問の要求に的確に応える、的の絞れた小論文を構成し、作成する。 ・歴史学者が用いる方法論と歴史学者が直面する課題について考察する。(内部評価) ・歴史の探究を導く適切かつ的の絞れた質問を組み立てる。(内部評価) ・リサーチスキル、および適切な文献を選択して参照し整理する能力があることを示す。(内部評価) 	

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点 (MEXT 評価規準) と評価方法

知識・技能	社会科・地理歴史科・公民科に関する知識の獲得と、技能の習得を授業中の学習活動・定期試験・課題等から評価します。上記の観点 A・B に対応します。	DP の評価方法に順ずる
思考・判断・表現	社会的な見方・考え方を働かせ、考察したり表現したりできているかを授業中の学習活動・定期試験・課題等から評価します。上記の観点 C・D に対応します。	
主体的に学習に取り組む態度	社会科・地理歴史科・公民科を探究する姿勢を「知識・技能」、「思考・判断・表現」の観点を踏まえた上で、IA や授業中の活動、振り返りなどの記述から総合的に評価します。	振り返りシート

使用教材

教科書：	Access to History for the IB Diploma: The Cold War: Superpower tensions and rivalries Second Edition ペーパーバック - 2015/5/29 英語版 David Williamson (著)
副教材：	

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。

1 学期	○冷戦：第二次世界大戦後の世界 …Paper 2-12「冷戦：超大国間の緊張と対立 (20 世紀)」の内容を中心にして、Paper 3-17「大戦後の西および北ヨーロッパ (1945～2000 年)」および Paper 2-11「20 世紀の戦争の原因と結
------	---

果」の内容ともオーバーラップさせながら、第二次世界大戦後の世界の動きを取り上げて、様々な観点から比較・対比し、歴史的な評価を加えていきます。主なテーマ（視点）は次の通りです。

- ・対立関係、不信、和解… 同盟の破綻と超大国間対立の出現、対立と和解、冷戦終結の理由、など
- ・指導者と国家… 指導者が冷戦の過程に及ぼした影響、冷戦の緊張が各国に及ぼした影響、など
- ・冷戦が引き起こした危機の事例研究… 危機の原因、影響、重要性の考察と比較（ベルリン危機、キューバ危機、など）

2 学期

- 戦後の西ヨーロッパに関する事例研究
…Paper 3-17「大戦後の西および北ヨーロッパ（1945～2000 年）」の内容を中心に、1 学期に取り上げた冷戦期の西ヨーロッパについて、ドイツ・フランス・スペイン・イギリスの 4 か国を事例として取り上げ、様々な視点から第二次世界大戦後の歴史について検証を加えていきます。
- 20 世紀世界史に関するいくつかの論点および歴史的意義の検討
…11 月の最終試験に向けて、5 年次から取り上げてきた 20 世紀世界史に関して Paper 1～3 で要求される探究課題にそって検討していきます。
- テーマ学習
…「歴史総合これまでの DP 歴史の授業で扱えなかったテーマや、世界の諸課題（時事問題）」について取り上げます。発表者は歴史的に考察できるテーマを選び、探究課題を提示し、クラス全体で議論していきます。

3 学期

- テーマ学習
★詳細については「DP 生徒用ガイド：History HL」を参照してください。

備考

「歴史総合」の履修を代替するものとする。

2026/03/25 更新

教科名	公民科	科目名	倫理			単位数
学年	6年		Ethics			2
(後期課程科目のみ)		学校設定科目		必履修科目		選択必履修科目

本科目の目標／伸ばしたい力

「私たちは、いかにしてよりよい社会を作っていくのか」。これを本質的な問いとして設定し、「自己と向き合い、他者とつながる中で、より良い未来にしたいと願う市民性」(公民的資質)を養うことが、本校公民科の目標です。

現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想する活動を通して、グローバル化する国際社会において主体的に生きる社会の有為な形成者としての資質・能力を育成していきます。3学年の「社会(公民分野)」, 4学年の「公共」の内容をさらに深化・発展させ、政治・経済に関する現代的諸課題を深く掘り下げていきます。

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点(MEXT 評価規準)と評価方法

知識・技能	社会科・地理歴史科・公民科に関する知識の獲得と、技能の習得を授業中の学習活動・定期試験・課題等から評価します。	定期試験
思考・判断・表現	社会的な見方・考え方を働かせ、考察したり表現したりできているかを授業中の学習活動・定期試験・課題等から評価します。	定期試験&課題
主体的に学習に取り組む態度	社会科・地理歴史科・公民科を探究する姿勢を「知識・技能」、「思考・判断・表現」の観点を踏まえた上で、振り返りなどの記述から総合的に評価します。	振り返りシート

使用教材

教科書： 倫理(東京書籍)

副教材： 最新図説倫理(浜島書店)

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。

1学期	<ul style="list-style-type: none"> ○人間の心の在り方 <ul style="list-style-type: none"> ・主として人間の特質や心の働きについて学習します ○さまざまな人生観・倫理観・世界観Ⅰ <ul style="list-style-type: none"> ・主として古代ギリシャの思想、古代中国の思想、宗教と社会について学習します
2学期	<ul style="list-style-type: none"> ○さまざまな人生観・倫理観・世界観Ⅱ <ul style="list-style-type: none"> ・主としてルネサンス以降のヨーロッパや近現代の世界の思想について学習します。 ○国際社会に生きる日本人としての自覚 <ul style="list-style-type: none"> ・主として日本人の精神風土、仏教思想、江戸時代の思想、近現代の思想について学習します
3学期	共通テスト演習

備考

教科名	公民科	科目名	政治・経済		単位数
学年	6年		Politics and Economy		2
(後期課程科目のみ)		学校設定科目		必修科目	選択必修科目

本科目の目標／伸ばしたい力

「私たちは、いかにしてよりよい社会を作っていくのか」。これを本質的な問いとして設定し、「自己と向き合い、他者とつながる中で、より良い未来にしたいと願う市民性」(公民的資質)を養うことが目標です。

現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想する活動を通して、グローバル化する国際社会において主体的に生きる社会の有為な形成者としての資質・能力を育成したい。3学年の「社会(公民分野)」, 4学年の「公共」の内容をさらに深化・発展させ、政治・経済に関する現代的諸課題を深く掘り下げていきます。

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点(MEXT 評価規準)と評価方法

知識・技能	社会科・地理歴史科・公民科に関する知識の獲得と、技能の習得を授業中の学習活動・定期試験・課題等から評価します。	定期試験
思考・判断・表現	社会的な見方・考え方を働かせ、考察したり表現したりできているかを授業中の学習活動・定期試験・課題等から評価します。	定期試験&課題
主体的に学習に取り組む態度	社会科・地理歴史科・公民科を探究する姿勢を「知識・技能」、「思考・判断・表現」の観点を踏まえた上で、振り返りなどの記述から総合的に評価します。	振り返りシート

使用教材

教科書： 高等学校政治・経済(清水書院)

副教材： 2025ズームアップ政治・経済資料(実教出版)

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。

1学期	<ul style="list-style-type: none"> ○現代政治のしくみと日本 <ul style="list-style-type: none"> ・主として政治と法のあり方、憲法と基本的人権、平和主義、統治機構、選挙制度、地方自治について学習します ○現代経済のしくみと日本 <ul style="list-style-type: none"> ・主として市場経済とメカニズム、景気変動、金融と財政、日本経済史、企業と労働問題について学習します。
2学期	<ul style="list-style-type: none"> ○現代の国際社会と政治 <ul style="list-style-type: none"> ・主として国際社会の成立、国連をはじめとする国際機関や国際協力、紛争と軍拡軍縮について学習します。 ○現代の国際社会と経済 <ul style="list-style-type: none"> ・主として国際貿易と分業、国際収支と為替、第二次世界大戦以降のIMF-GATT体制、EUやASEANなどの地域共同体について学習します。
3学期	共通テスト演習

備考

5年政治・経済と6年政治・経済の学習内容はほぼ同じですが、6年政経は12月で終わらせる(共通テスト前に終わらせる)ことを目標とします。多少時間をかけてじっくり勉強したい場合は5年で履修することをお勧めします。

教科名	公民科	科目名	政治・経済イマージョン			単位数
学年	6年		Politics and Economy Immersion			2
(後期課程科目のみ)		学校設定科目	○	必履修科目		選択必履修科目

本科目の目標／伸ばしたい力

「私たちは、いかにしてよりよい社会をつくるのか」。これを本質的な問いとして設定し、「自己と向き合い、他者とつながる中で、より良い未来にしたいと願う市民性」(公民的資質)を養うことが目標です。現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想する活動を通して、グローバル化する国際社会において主体的に生きる社会の有為な形成者としての資質・能力を育成していきます。3学年の「社会(公民分野)」, 4学年の「公共」の内容をさらに深化・発展させ、政治・経済に関する現代的諸課題を深く掘り下げていきます。

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点(MEXT 評価規準)と評価方法

知識・技能	社会科・地理歴史科・公民科に関する知識の獲得と、技能の習得を授業中の学習活動・定期試験・課題等から評価します。	定期試験 評価課題
思考・判断・表現	社会的な見方・考え方を働かせ、考察したり表現したりできているかを授業中の学習活動・定期試験・課題等から評価します。	定期試験 評価課題
主体的に学習に取り組む態度	社会科・地理歴史科・公民科を探究する姿勢を「知識・技能」、「思考・判断・表現」の観点を踏まえた上で、振り返りなどの記述から総合的に評価します。	振り返りシート など

使用教材

教科書： なし

副教材： なし

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。

担当教員が作成した教材を用い、映像資料なども活用して学習していきます。

おもな学習内容は、以下のとおりです。

○グローバル化する国際社会の諸課題

- ・国際政治や世界経済など、主として国際社会に関する諸課題
比較生産費説、国際収支、為替相場のしくみおよび戦後国際政治の変遷など
- ・グローバル化する国際社会の諸課題の探究

例として、グローバル化に伴う人々の生活や社会の変容、地球環境と資源・エネルギー問題、イノベーションと成長市場、人種・民族問題

や地域紛争の解決に向けた国際社会の取り組み、持続可能な国際社会づくりなど

○現代日本における政治の諸課題

政治と法の意義と機能や議会制民主主義、国民主権と政治機構など

○現代日本における経済の諸課題

経済社会と経済体制、現代経済の仕組みと特質、日本経済のあゆみと現状など

○現代日本における政治・経済の諸課題の探究

例として、少子高齢化社会における社会保障の充実・安定化、地域社会の自立と政府、産業構造の変化と起業、歳入・歳出両面での

財政健全化、防災と安全・安心な社会の実現など

○現代日本における政治・経済の諸課題の探究

例として、少子高齢化社会における社会保障の充実・安定化、地域社会の自立と政府、産業構造の変化と起業、歳入・歳出両面での財政健全化、防災と安全・安心な社会の実現など

備考

教科名	数学科	科目名	数学Ⅲ			単位数
学年	6年		Mathematics III			3
(後期課程科目のみ)		学校設定科目		必履修科目		選択必履修科目

本科目の目標／伸ばしたい力

本科目では前述に加え、特に現実や数学の事象を解決し、その過程を振り返って活動を整理することによって新たな数学の知識や方法を構築する力の育成を目指します。

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法

知識・技能	数量や図形などについての基本的な概念や原理・法則等を理解しているかどうかを評価します。また、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けているかどうかを評価します。	定期試験、レポート課題
思考・判断・表現	数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見出し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を評価します。	定期試験、レポート課題
主体的に学習に取り組む態度	数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとしたり、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしていたりしている態度について評価します。	課題の振り返り、授業の振り返り

使用教材

教科書： 東京書籍 数学 III Advanced

副教材：

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。

4～5月	① 関数と極限 数学Ⅱの学習を基にして、極限観念の理解をより深め、さまざまな関数や事象の考察・処理に活かすことができるようにします。 (主な学習内容) 逆関数と合成関数、数列の極限、関数の極限と連続性
6～10月	② 微分法 具体的な事象の考察を通して、微分に対する理解を深めるとともに、より広範囲にわたる事象の考察・処理に活かすことができるようにします。 (主な学習内容) 微分可能と連続、積・商の微分法、合成関数と逆関数の微分法、三角関数・対数関数・指数関数の導関数、高次導関数、接線の方程式、平均値の定理、関数の増減、グラフの凹凸、第2次導関数と極大・極小、速度と加速度、関数の近似式、微分方程式
11月～	③ 積分法 具体的な事象の考察を通して、積分に対する理解を深めるとともに、より広範囲にわたる事象の考察・処理に活かすことができるようにします。 (主な学習内容) 不定積分、置換積分法と部分積分法、定積分、定積分と微分、区分求積法と定積分、面積、体積、回転体の体積、曲線の長さ

備考

教科名	数学科	科目名	数学C			単位数
学年	6年		Mathematics C			2
(後期課程科目のみ)		学校設定科目		必履修科目		選択必履修科目

本科目の目標／伸ばしたい力

本科目では前述に加え、特に現実や数学の事象を解決し、その過程を振り返って活動を整理することによって新たな数学の知識や方法を構築する力の育成を目指します。

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法

知識・技能	数量や図形などについての基本的な概念や原理・法則等を理解しているかどうかを評価します。また、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けているかどうかを評価します。	定期試験、レポート課題
思考・判断・表現	数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見出し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を評価します。	定期試験、レポート課題
主体的に学習に取り組む態度	数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとしたり、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしていたりしている態度について評価します。	課題の振り返り、授業の振り返り

使用教材

教科書： 東京書籍 数学 C Advanced

副教材： TGUISS 数学 5・6

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。

4～7月	① 座標幾何Ⅱ（曲線のいろいろな表し方） 直線や曲線などの平面図形に関する条件を適切な座標系や式を用いて表現・処理し、それらの図形の性質や関係を見いだしたり確かめたりできるようにするとともに、その方法を事象の考察に活用できるようにします。ここでは特に、平面図形のさまざまな代数的表現を学びます。 (主な学習内容) 媒介変数と極座標
9月～	② 複素数平面 複素数平面を用いて複素数を図表示し、複素数の演算や方程式の解の幾何学的な意味を理解し、平面図形への応用を通して複素数を事象の考察に活用できるようにします。 (主な学習内容) 複素数平面、複素数の極形式、ド・モアブルの定理、平面図形と複素数 『TGUISS 数学 5・6』も使用しながら、以上のような学習を行います。

備考

教科名	数学科	科目名	数学特講 a			単位数
学年	6年		Mathematics Seminar a			4
(後期課程科目のみ)		学校設定科目	○	必履修科目	選択必履修科目	

本科目の目標／伸ばしたい力

学習内容や数学的プロセスに基づき、問題解決力の育成を図っていきます。

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法

知識・技能	数量や図形などについての基本的な概念や原理・法則等を理解しているかどうかを評価します。また、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けているかどうかを評価します。	定期試験
思考・判断・表現	数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見出し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を評価します。	定期試験
主体的に学習に取り組む態度	数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとしたり、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしていたりしている態度について評価します。	授業の取り組み 提出物

使用教材

教科書：

副教材： 2026 スタンダード数学演習 I・II・A・B・C [ベクトル] 受験編（数研出版）

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。

1年間を通して、数学 I・II・A・B・C の問題演習を行います。

大まかな内容と計画を記載ねがいます。

備考

主に、理系学部進学を希望している生徒が対象です。

教科名	数学科	科目名	数学特講 b			単位数
学年	6年		Mathematics Seminar b			2
(後期課程科目のみ)		学校設定科目	○	必履修科目	選択必履修科目	

本科目の目標／伸ばしたい力

学習内容や数学的プロセスに基づき、問題解決力の育成を図っていきます。

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法

知識・技能	数量や図形などについての基本的な概念や原理・法則等を理解しているかどうかを評価します。また、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けているかどうかを評価します。	定期試験
思考・判断・表現	数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見出し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を評価します。	定期試験
主体的に学習に取り組む態度	数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとしたり、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしていたりしている態度について評価します。	授業の取り組み 提出物

使用教材

教科書：

副教材： ニューステージ数学演習 I・A+II・B・C 受験編（数研出版）

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。

1年間を通して、1年間を通して、数学 I・II・A・B・C の問題演習を行います。

おおまかな内容と計画をお願いします。

備考

主に、共通テストで数学の受験を希望している生徒が対象です。

教科名	数学科	科目名	数学特講イマージョンB			単位数
学年	6年		Mathematics seminar immersion B			2
(後期課程科目のみ)		学校設定科目	○	必履修科目		選択必履修科目

本科目の目標／伸ばしたい力

これまでの学習内容と数学的プロセスに基づき、特に AP Calculus レベルの数学に特化して、英語での問題解決力の育成を図っていきます。

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法

知識・技能	数量や図形などについての基本的な概念や原理・法則等を理解しているかどうかを評価します。また、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けているかどうかを評価します。	小テスト 学期末評価テスト
思考・判断・表現	数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見出し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を評価します。	小テスト 学期末評価テスト
主体的に学習に取り組む態度	数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとしたり、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしていたりしている態度について評価します。	振り返り 授業態度（宿題含む）

使用教材

教科書： なし

副教材： Haese Mathematics Revision Guide

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。

1 学期 これまで学習した数学を英語で復習， AP Calculus レベル（数学Ⅲレベル） 演習（Differentiation）

2・3 学期 AP Calculus（数学Ⅲレベル） 演習(Differentiation, Integration)

備考

- ・数学Ⅲ・C を履修していることが望ましい。
- ・海外への大学（特に英語圏）進学を希望する者で、AP Calculus レベルの数学を英語でも学んでおきたい生徒を対象とする。

教科名	数学科	科目名	数学		単位数
学年	6年 DP		DP Mathematics Applications and Interpretation SL		3
(後期課程科目のみ)		学校設定科目	○	必履修科目	選択必履修科目

本科目の目標／伸ばしたい力

The aims of all DP mathematics courses are to enable students to:

1. develop a curiosity and enjoyment of mathematics, and appreciate its elegance and power
2. develop an understanding of the concepts, principles and nature of mathematics
3. communicate mathematics clearly, concisely and confidently in a variety of contexts
4. develop logical and creative thinking, and patience and persistence in problem solving to instill confidence in using mathematics
5. employ and refine their powers of abstraction and generalization
6. take action to apply and transfer skills to alternative situations, to other areas of knowledge and to future developments in their local and global communities
7. appreciate how developments in technology and mathematics influence each other
8. appreciate the moral, social and ethical questions arising from the work of mathematicians and the applications of mathematics
9. appreciate the universality of mathematics and its multicultural, international and historical perspectives
10. appreciate the contribution of mathematics to other disciplines, and as a particular “area of knowledge” in the TOK course
11. develop the ability to reflect critically upon their own work and the work of others
12. independently and collaboratively extend their understanding of mathematics.

DP 評価規準と評価方法

A : knowledge and skills	The student is evaluated whether he or she: <ul style="list-style-type: none"> • can recall, select and use their knowledge of mathematical facts, concepts and techniques in a variety of familiar and unfamiliar contexts sufficiently. • can use technology accurately, appropriately and efficiently both to explore new ideas and to solve problems sufficiently. 	Exam Small quiz (Report task)
B : Reasoning and communication	The student is evaluated whether he or she: <ul style="list-style-type: none"> • can construct mathematical arguments through use of precise statements, logical deduction and inference, and by the manipulation of mathematical expressions sufficiently. • transform common realistic contexts into mathematics; comment on the context; sketch or draw mathematical diagrams, graphs or constructions both on paper and using technology; record methods, solutions and conclusions using standardized notation sufficiently. 	Exam Small quiz (Report task)
C : Inquiry approaches and problem solving	The student is evaluated whether he or she: <ul style="list-style-type: none"> • can investigate unfamiliar situations, both abstract and real-world, involving organizing and analyzing information, making conjectures, drawing conclusions and testing their validity sufficiently. • can recall, select and use their knowledge of mathematical skills, results and models in both real and abstract contexts to solve problems sufficiently. 	Exam Small quiz (Report task)

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点 (MEXT 評価規準) と評価方法

知識・技能	数量や図形などについての基本的な概念や原理・法則等を理解しているかどうかを評価します。また、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けているかどうかを評価しま	Exam, Small quiz (Report task) ※Corresponding
-------	---	---

	す。	to Criterion A
思考・判断・表現	数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見出し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を評価します。	Exam, Small quiz (Report task) ※Corresponding to Criterion B&C
主体的に学習に取り組む態度	数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとしたり、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしていたりしている態度について評価します。	Attitude Homework Reflection
使用教材		
教科書： Mathematics Applications and Interpretation SL for use with IB diploma Programme (Haese Mathematics)		
副教材： Revision Guide (Haese Mathematics)		
学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。		
Mathematical exploration (April)	Each student must choose his or her own topic or research question and explore it, using mathematics. Sharing his or her own topic and giving some feedback to each other.	
Pre-calculus (April-July)	Applications of differentiation, integration and areas	
Voronoi diagrams (September)	Constructing Voronoi diagrams, adding a site to a Voronoi diagram.	
Review and Preparation for the external exam (October)	Reviewing and working on mock exams.	
Coordinate geometry (November - January)	Some centroids for a triangle, Equations for some diagrams. ※The content will be subject to change.	
備考		

2026/03/23 更新

教科名	理科	科目名	SS 物理		単位数
学年	6年		Advanced Physics		3
(後期課程科目のみ)		学校設定科目		必履修科目	
				選択必履修科目	

本科目の目標／伸ばしたい力

多面的・多角的な要素を含む現代的な諸課題のありようを認識し、それらを科学的に捉えるものの見方を育成する。また、自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。一連の学習活動を通して、科学とは何か、私たちは科学をどう扱っていくのかなど、科学そのものについての豊かな認識を育成する。

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> i.科学的知識について十分に理解を示す。 ii.実験器具，測定機器等を正確に操作し、実験・観察を行う。 iii.定量的および定性的な生データを十分に記録する。 iv.情報源を完璧に明記する。 v.科学的知識と理解を応用し，実社会における問題や課題について多面的に述べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> i.自然の事物・現象とそこから見いだした問題を述べる。 ii.正しい科学的推論を用いて、検証可能な仮説を組み立て、説明する。 iii.変数とその操作方法を設定し、十分かつ適切なデータを収集する方法を説明し、適切な材料と設備を選択して、論理的で安全な方法をデザインする。 iv.データを、わかりやすく整理し、正確に解釈する。 v.探究課題に全面的に対応し、提示されたデータによって十分に裏づけられた結論が詳しく述べられている。 vi.実社会の問題や課題に科学が与える影響を多面的に捉え、自分の意見を詳しく述べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・レポート課題 ・パフォーマンス課題
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> i.実験・観察、実社会の問題や課題に関する学び等に試行錯誤しながら、粘り強く取り組む。 ii.実験・観察方法、実社会の問題や課題に関する学び等を振り返り、改善するための提案について詳しく述べる。 <p>以下の要素の形成的評価や行動観察において、試行錯誤しながら、粘り強く取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・探究課題に取り組んだ時の実験ノートやワークシートへの記述 ・課題の提出状況・取り組み状況 ・振り返りの記入 ・小テスト ・グループワークへの貢献 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元ごとの振り返り ・レポート課題

使用教材

教科書： 物理（東京書籍）

副教材： なし

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。

1 学期 電気と磁気の内容を学習します。

2 学期

幾何光学、波動光学、原子の内容を学習します。

備考

物理は5年と6年で、分割で履修します。両方履修して、物理を履修したことになります。

2026/4/1 更新

教科名	理科	科目名	物理基礎演習		単位数
学年	6年		Basic Physics (Exercise)		1
(後期課程科目のみ)		学校設定科目		必履修科目	選択必履修科目

本科目の目標／伸ばしたい力

物理基礎の内容の例題、基礎問題を解き、基礎力を高める。自分の苦手分野を把握し、克服するために何に取り組むことが大切か分析する力をつける。大学入学共通テストに対応できる学力を身につける。

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法

知識・技能	科学的知識について十分に理解を示す。	・定期考査
思考・判断・表現	自然の事物・現象、実験結果などを自然科学の知識を適切に用いて分析・解釈し、自分の考えを論理的かつ明確に表現する。	・定期考査 ・レポート課題 ・パフォーマンス課題
主体的に学習に取り組む態度	振り返り等の機会を通じて、自身のこれまでの学びの良い点や改善すべき点を認識し、述べている。また、それらを踏まえた、今後の自分の取り組みについて具体的に述べている。	・学期ごとの振り返り ・レポート課題

使用教材

教科書： なし

副教材： なし

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。

1 学期 物理基礎の総復習を行います。

2 学期 共通テスト問題の演習を行います。

備考

教科名	理科	科目名	SS 化学		単位数
学年	6年		Advanced Chemistry		5
(後期課程科目のみ)		学校設定科目		必履修科目	
				選択必履修科目	

本科目の目標／伸ばしたい力

多面的・多角的な要素を含む現代的な諸課題のありようを認識し、それらを科学的に捉えるものの見方を育成する。また、自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。一連の学習活動を通して、科学とは何か、私たちは科学をどう扱っていくのかなど、科学そのものについての豊かな認識を育成する。

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> i.科学的知識について十分に理解を示す。 ii.実験器具，測定機器等を正確に操作し、実験・観察を行う。 iii.定量的および定性的な生データを十分に記録する。 iv.情報源を完璧に明記する。 v.科学的知識と理解を応用し，実社会における問題や課題について多面的に述べる。 	
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> i.自然の事物・現象とそこから見いだした問題を述べる。 ii.正しい科学的推論を用いて、検証可能な仮説を組み立て、説明する。 iii.変数とその操作方法を設定し、十分かつ適切なデータを収集する方法を説明し、適切な材料と設備を選択して、論理的で安全な方法をデザインする。 iv.データを、わかりやすく整理し、正確に解釈する。 v.探究課題に全面的に対応し、提示されたデータによって十分に裏づけられた結論が詳しく述べられている。 vi.実社会の問題や課題に科学が与える影響を多面的に捉え、自分の意見を詳しく述べる。 	
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> i.実験・観察、実社会の問題や課題に関する学び等に試行錯誤しながら、粘り強く取り組む。 ii.実験・観察方法、実社会の問題や課題に関する学び等を振り返り、改善するための提案について詳しく述べる。 <p>以下の要素の形成的評価や行動観察において、試行錯誤しながら、粘り強く取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・探究課題に取り組んだ時の実験ノートやワークシートへの記述 ・課題の提出状況・取り組み状況 ・振り返りの記入 ・小テスト ・グループワークへの貢献 	

使用教材

教科書： 化学（実教出版）

副教材： サイエンスビュー化学総合資料、セミナー化学

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。

1 学期 物質の状態と平衡 物質の変化と平衡 有機化合物

2 学期	無機物質 高分子化合物 物質の変化と平衡
3 学期	年間のまとめ
備考	

2025/4/4 更新

教科名	理科	科目名	化学基礎演習			単位数
学年	6年		Basic Chemistry (Exercise)			1
(後期課程科目のみ)		学校設定科目		必履修科目		選択必履修科目

本科目の目標／伸ばしたい力

化学基礎の内容の例題、基礎問題を解き、基礎力を高める。自分の苦手分野を把握し、克服するために何に取り組むことが大切か分析する力をつける。大学入学共通テストに対応できる学力を身につける。

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法

知識・技能	科学的知識について十分に理解を示す。	
思考・判断・表現	自然の事物・現象、実験結果などを自然科学の知識を適切に用いて分析・解釈し、自分の考えを論理的かつ明確に表現する。	
主体的に学習に取り組む態度	振り返り等の機会を通じて、自身のこれまでの学びの良い点や改善すべき点を認識し、述べている。また、それらを踏まえた、今後の自分の取り組みについて具体的に述べている。	

使用教材

教科書： なし

副教材： なし

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。

1 学期	化学基礎全範囲の総復習を行います。
2 学期	共通テストの問題演習などを行います。
3 学期	まとめ

備考

教科名	理科	科目名	SS 生物		単位数
学年	6年		Advanced Biology		3
(後期課程科目のみ)		学校設定科目		必履修科目	選択必履修科目

本科目の目標／伸ばしたい力

多面的・多角的な要素を含む現代的な諸課題のありようを認識し、それらを科学的に捉えるものの見方を育成する。また、自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。一連の学習活動を通して、科学とは何か、私たちは科学をどう扱っていくのかなど、科学そのものについての豊かな認識を育成する。

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> i.科学的知識について十分に理解を示す。 ii.実験器具，測定機器等を正確に操作し、実験・観察を行う。 iii.定量的および定性的な生データを十分に記録する。 iv.情報源を完璧に明記する。 v.科学的知識と理解を応用し，実社会における問題や課題について多面的に述べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> i.自然の事物・現象とそこから見いだした問題を述べる。 ii.正しい科学的推論を用いて、検証可能な仮説を組み立て、説明する。 iii.変数とその操作方法を設定し、十分かつ適切なデータを収集する方法を説明し、適切な材料と設備を選択して、論理的で安全な方法をデザインする。 iv.データを、わかりやすく整理し、正確に解釈する。 v.探究課題に全面的に対応し、提示されたデータによって十分に裏づけられた結論が詳しく述べられている。 vi.実社会の問題や課題に科学が与える影響を多面的に捉え、自分の意見を詳しく述べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・レポート課題 ・パフォーマンス課題
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> i.実験・観察、実社会の問題や課題に関する学び等に試行錯誤しながら、粘り強く取り組む。 ii.実験・観察方法、実社会の問題や課題に関する学び等を振り返り、改善するための提案について詳しく述べる。 <p>以下の要素の形成的評価や行動観察において、試行錯誤しながら、粘り強く取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・探究課題に取り組んだ時の実験ノートやワークシートへの記述 ・課題の提出状況・取り組み状況 ・振り返りの記入 ・小テスト ・グループワークへの貢献 	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート課題 ・振り返り

使用教材

教科書： 生物（数研出版）

副教材： スクエア最新図説生物(第一学習社)、セミナー生物基礎＋生物(第一学習社)

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。

1 学期 生物の環境応答に関する内容を学習します。

2 学期 生物群集と生態系に関する内容を学習します。

備考

生物は5年と6年で、分割で履修します。両方履修して、生物を履修したことになります。

2025/4/3 更新

教科名	理科	科目名	生物基礎演習			単位数
学年	6年		Basic Biology (Exercise)			1
(後期課程科目のみ)		学校設定科目		必履修科目		選択必履修科目

本科目の目標／伸ばしたい力

生物基礎の内容の例題、基礎問題を解き、基礎力を高める。自分の苦手分野を把握し、克服するために何に取り組むことが大切か分析する力をつける。大学入学共通テストに対応できる学力を身につける。

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法

知識・技能	科学的知識について十分に理解を示す。	・定期考査
思考・判断・表現	自然の事物・現象、実験結果などを自然科学の知識を適切に用いて分析・解釈し、自分の考えを論理的かつ明確に表現する。	・定期考査
主体的に学習に取り組む態度	振り返り等の機会を通じて、自身のこれまでの学びの良い点や改善すべき点を認識し、述べている。また、それらを踏まえた、今後の自分の取り組みについて具体的に述べている。	・学期末の振り返り ・レポート課題

使用教材

教科書： なし
副教材： セミナー生物基礎

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。

1 学期 共通テストや入試問題を基に基礎知識の復習を行います。
2・3 学期 共通テストや入試問題を基に発展的な内容を含む演習を行います。

備考

教科名	理科	科目名	SS 地学			単位数
学年	6年		Advanced Earth Science			5
(後期課程科目のみ)		学校設定科目		必履修科目		選択必履修科目

本科目の目標／伸ばしたい力

多面的・多角的な要素を含む現代的な諸課題のありようを認識し、それらを科学的に捉えるものの見方を育成する。また、自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。一連の学習活動を通して、科学とは何か、私たちは科学をどう扱っていくのかなど、科学そのものについての豊かな認識を育成する。

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> i.科学的知識について十分に理解を示す。 ii.実験器具，測定機器等を正確に操作し、実験・観察を行う。 iii.定量的および定性的な生データを十分に記録する。 iv.情報源を完璧に明記する。 v.科学的知識と理解を応用し，実社会における問題や課題について多面的に述べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> i.自然の事物・現象とそこから見いだした問題を述べる。 ii.正しい科学的推論を用いて、検証可能な仮説を組み立て、説明する。 iii.変数とその操作方法を設定し、十分かつ適切なデータを収集する方法を説明し、適切な材料と設備を選択して、論理的で安全な方法をデザインする。 iv.データを、わかりやすく整理し、正確に解釈する。 v.探究課題に全面的に対応し、提示されたデータによって十分に裏づけられた結論が詳しく述べられている。 vi.実社会の問題や課題に科学が与える影響を多面的に捉え、自分の意見を詳しく述べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・レポート課題 ・パフォーマンス課題
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> i.実験・観察、実社会の問題や課題に関する学び等に試行錯誤しながら、粘り強く取り組む。 ii.実験・観察方法、実社会の問題や課題に関する学び等を振り返り、改善するための提案について詳しく述べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ポートフォリオ ・学期末の振り返り ・実験プリント ・小テスト

使用教材

教科書： 高等学校 地学（啓林館）

副教材： センサー地学 3rd Edition（啓林館）

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。

1 学期 固体地球・地震・火山・地球の歴史に関する内容を学習します。

2 学期 大気と海洋・宇宙の構成に関する内容を学習します。

備考

教科名	理科	科目名	地学基礎演習			単位数
学年	6年		Basic Earth Science (Exercise)			1
(後期課程科目のみ)		学校設定科目		必履修科目		選択必履修科目

本科目の目標／伸ばしたい力

地学基礎の内容の例題、基礎問題を解き、基礎力を高める。自分の苦手分野を把握し、克服するために何に取り組むことが大切か分析する力をつける。大学入学共通テストに対応できる学力を身につける。

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法

知識・技能	科学的知識について十分に理解を示す。	・定期考査
思考・判断・表現	自然の事物・現象、実験結果などを自然科学の知識を適切に用いて分析・解釈し、自分の考えを論理的かつ明確に表現する。	・定期考査 ・レポート課題
主体的に学習に取り組む態度	振り返り等の機会を通じて、自身のこれまでの学びの良い点や改善すべき点を認識し、述べている。また、それらを踏まえた、今後の自分の取り組みについて具体的に述べている。	・学期末の振り返り

使用教材

教科書： なし

副教材： なし

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。

1 学期 地学基礎全範囲の総復習を行います。

2 学期 共通テストの問題演習などを行います。

備考

教科名	理科	科目名	サイエンスイマージョンB		単位数
学年	6年		Science Immersion B		2
(後期課程科目のみ)		学校設定科目		必履修科目	
				選択必履修科目	

本科目の目標／伸ばしたい力

多面的・多角的な要素を含む現代的な諸課題のありようを認識し、それらを科学的に捉えるものの見方を育成する。また、自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。一連の学習活動を通して、科学とは何か、私たちは科学をどう扱っていくのかなど、科学そのものについての豊かな認識を育成する。

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> i.科学的知識について十分に理解を示す。 ii.実験器具，測定機器等を正確に操作し、実験・観察を行う。 iii.定量的および定性的な生データを十分に記録する。 iv.情報源を完璧に明記する。 v.科学的知識と理解を応用し，実社会における問題や課題について多面的に述べる。 	
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> i.自然の事物・現象とそこから見いだした問題を述べる。 ii.正しい科学的推論を用いて、検証可能な仮説を組み立て、説明する。 iii.変数とその操作方法を設定し、十分かつ適切なデータを収集する方法を説明し、適切な材料と設備を選択して、論理的で安全な方法をデザインする。 iv.データを、わかりやすく整理し、正確に解釈する。 v.探究課題に全面的に対応し、提示されたデータによって十分に裏づけられた結論が詳しく述べられている。 vi.実社会の問題や課題に科学が与える影響を多面的に捉え、自分の意見を詳しく述べる。 	
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> i.実験・観察、実社会の問題や課題に関する学び等に試行錯誤しながら、粘り強く取り組む。 ii.実験・観察方法、実社会の問題や課題に関する学び等を振り返り、改善するための提案について詳しく述べる。 <p>以下の要素の形成的評価や行動観察において、試行錯誤しながら、粘り強く取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・探究課題に取り組んだ時の実験ノートやワークシートへの記述 ・課題の提出状況・取り組み状況 ・振り返りの記入 ・小テスト ・グループワークへの貢献 	

使用教材

教科書： なし

副教材： 教員が準備する資料

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。

1 学期～2 学期 This course deals with the more specialized field of Biophysics, whereby, the traditional scope of Physics

is now applied in the biological field. More specifically, students will be introduced to a subsection of Biophysics which is Protein Biophysics. In the first half of the course, students are introduced to the different topics of protein biophysics and, for the laboratory, students will be trained with Structural Analytics. Each week students will be taught the theoretical aspect of the topics complimented with the applied aspect.

2 学期～3 学期

In the second half of the course, students will work on their own projects with the possibility of publishing these works in an international journal.

備考

研究成果の発表の場として、各学会の Jr.セッションや大学や企業が主催する課題研究発表会などの外部研究発表での英語での発表への参加を積極的に勧める。

2025/4/4 更新

教科名	理科	科目名	化学			単位数
学年	6年 DP		DP Chemistry SL			3
(後期課程科目のみ)		学校設定科目		必履修科目	○	選択必履修科目

本科目の目標／伸ばしたい力

多面的・多角的な要素を含む現代的な諸課題のありようを認識し、それらを科学的に捉えるものの見方を育成する。また、自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。一連の学習活動を通して、科学とは何か、私たちは科学をどう扱っていくのかなど、科学そのものについての豊かな認識を育成する。

DP 評価規準と評価方法

A：知識とその応用	<ul style="list-style-type: none"> ・包括的な科目の知識を示し、概念および原理についてそれを自由に駆使する万全な能力を備えている。 ・関連する情報、概念、原理を幅広い文脈に選択・応用している。 	
B：分析・評価・統合	<ul style="list-style-type: none"> ・量的および質的なデータを徹底的に分析・評価することができる。 ・複雑な現象を詳細に説明し、的確な予測を立てている。 ・新しい、または難解なものも含め、優れた問題解決能力を示す。 ・的確な専門用語や表現技法を用いて、論理的かつ簡潔にコミュニケーションをとることができる。 ・洞察力や独自性が示されている。 	
C：科学的研究スキル	<ul style="list-style-type: none"> ・倫理にかなった方法で調査に取り組み、必要な場面では安全性および環境への影響に完璧な配慮を行っている。 ・調査では、洞察力と独自に設定する能力を示し、高い調査・分析能力をもって革新的な実習を完了させる。 ・本物の問題を解決するための革新的かつ効果的な結論を導く 	

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法

知識・技能	単元テストや模試の評価に基づき、評価する。	
思考・判断・表現	単元テストや模試、実験レポートの評価に基づき、評価する。	
主体的に学習に取り組む態度	授業中に実施する探究活動や議論への取り組みに基づき、評価する。	

使用教材

教科書： 化学基礎(実教出版)

副教材：

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。

1 学期	科学協働プロジェクトの実施 反応性 2.2 化学変化の速度、反応性 2.3 化学変化の進行度 個人科学的研究の実施
2 学期	個人科学的研究の実施 最終試験のための準備

備考

「化学基礎」の履修を代替するものとする。

2024/5/9 更新

教科名	保健体育科	科目名	体育			単位数
学年	6年		Physical Education			3
(後期課程科目のみ)		学校設定科目		必履修科目	○	選択必履修科目

本科目の目標／伸ばしたい力

運動の原則やルール、高度な戦術を考えることができる。
 一連の動きや技の構成などが洗練され、美的でスムーズに展開するとともに、表現豊かに運動することができる。
 より複雑な運動に対して必要な技術を習得し、それを利用して課題解決を図ったり、他者に示したりすることができる。
 個人やグループで、優れた作戦や戦術を使って攻防したり、挑戦したりすることができる。
 他者との連携を図るために、協力したり責任感を持って取り組んだりするとともに、効果的なコミュニケーション力を発揮しようとするすることができる。
 体育ノートの提出等、決められた約束を守ったり、他者と協力して懸命に取り組んだりすることができる。
 各運動種目における専門的な知識を深めながら技能を高めることができる。
 種目選択においては技術的な向上だけでなく、各競技を運営していくための能力を養うことができる。

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法

知識・技能	体育・体育理論に関する知識の獲得と、技能の習得を授業中の学習活動・定期試験・体育ノート等から評価します。	体育ノート、運動のパフォーマンス
思考・判断・表現	体育的な見方・考え方を働かせ、課題を発見したり解決したりできているかを授業中の学習活動・体育ノート等から評価します。	体育ノート
主体的に学習に取り組む態度	運動の楽しさや仲間との協力を実感しながら、体育を生活や他の学習に生かそうとしたり、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしたりしている態度について評価します。	体育ノート及び授業内における活動状況

使用教材

教科書： 現代高等保健体育（大修館書店）

副教材： Active Sports（大修館書店）

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。

1 学期	体づくり運動 選択種目Ⅲ（バレーボール、バドミントン、ソフトボール） 選択種目Ⅳ（卓球・アルティメット・バドミントン） 体育理論
2 学期	選択種目Ⅴ（テニス、バスケットボール、ハンドボール） 選択種目Ⅵ（タグラグビー、卓球、ダンス） 体育理論

※選択種目は変更になる場合があります

備考

見学する場合は、必ず「見学届」を提出してください。

教科名	芸術科	科目名	音楽Ⅲ			単位数
学年	6年		Music III			2
(後期課程科目のみ)		学校設定科目		必履修科目		選択必履修科目

本科目の目標／伸ばしたい力

- 1 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味・関心を高め、音楽によって生活を明るく豊かなものに、生涯にわたって音楽に親しんでいく態度を育てる。
- 2 多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、表現の技能を伸ばし、創意工夫して表現する能力を高める。
- 3 多様な音楽に対する理解を深め、多角的な視点視野を持って、幅広く主体的に鑑賞する能力を高める。

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法

知識・技能	音楽を形づくる要素が曲調や曲想、表現にどのように作用するか、また、歴史的背景と文脈を捉えながら音楽と音楽表現の本質に迫るうえで必要なりサーチ力や分析力、創意工夫に必要な音楽的スキルを身に付けるようにする。	
思考・判断・表現	音楽表現の創意工夫やイメージの表出を通して音楽における自身のアイデンティティと向き合い、自他の音楽観との比較や評価をしながらより個性的な音楽表現と多様な音楽を受け入れられる感性を磨く。	
主体的に学習に取り組む態度	音楽の創作や表現の工夫において主体的・協働的に取り組む中でコミュニケーション力や粘り強さを育み、生涯にわたって多様な音楽が自身とどのように関わっていくのかについて深く考え、積極的に音や音楽を模索していく姿勢・態度を養う。	

使用教材

教科書： 教育芸術社 Joy of Music

副教材： なし

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。

1学期	ソルフェージュ演習 イタリア歌曲歌唱【歌唱】
2学期	※以下の器楽演習は履修者の楽器経験によって異なる 弦楽合奏基礎【器楽】 バンド演習【器楽】 クラシックギター演習【器楽】 ミュージカル演習【歌唱】 ※これらの活動内ではオリジナル作品の創作を含む
3学期	ポートフォリオ作成

備考

5年次に音楽Ⅱを履修していること。

教科名	芸術科	科目名	美術Ⅲ			単位数
学年	6年		Art and Design III			2
(後期課程科目のみ)		学校設定科目		必履修科目		選択必履修科目

本科目の目標／伸ばしたい力

美術科では6年間で3段階に分け、基礎美術、発展美術、創造美術と位置づけます。3つの段階を学習することにより、基礎から応用まで無理なく楽しみながら学習活動ができるようにします。なお、後期課程からは芸術科は選択科目になります。(4年次は選択必修)

美術教室の中での活動だけでなく、学校図書館や美術館等の施設を積極的に活用し、美術に対する関心・意欲や鑑賞力・創造力を高めていきます。

6年生は多様な表現や文化への理解を深め、豊かな感性と創造力を持って社会へはばたいていく時期と捉え、授業を展開していきます。

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点 (MEXT 評価規準) と評価方法

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深める 意図に応じて表現方法を追求し、個性を生かして創造的に表す 	
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 造形的なよさや美しさ、独創的な表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどを考える 主題を生成し個性を生かして発想し構想を練る 自己の価値観を働かせて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深める 	
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に美術の創造的な諸活動に取り組む 生涯にわたり美術を愛好する心情 感性と美意識を磨き、美術文化を尊重し、心豊かな生活や社会を創造していく態度 	

使用教材

教科書： 光村図書3

副教材： なし

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。

1学期	立体・彫刻・デザイン 表現や鑑賞の活動を通じて、社会と芸術と自分の関係について学びます (主な学習内容・活動内容) 空間デザイン、インスタレーション、パブリックアート、鑑賞
2学期	平面・絵画 表現や鑑賞の活動を通じて、自分にとっての芸術とは何かを学びます (主な学習内容・活動内容) 卒業制作、鑑賞
3学期	平面・デザイン これまでの学習を振り返り、視覚的に伝達することを学びます。 (主な学習内容・活動内容) グラフィックデザイン、鑑賞

備考

5年次に美術Ⅱを履修していること。

教科名	芸術科	科目名	書道Ⅲ			単位数
学年	6年		Calligraphy III			2
(後期課程科目のみ)		学校設定科目		必履修科目		選択必履修科目

本科目の目標／伸ばしたい力

6年生の芸術書道は、書道における専門的な知識の学習を行うとともに、古典の臨書学習を通し、書道における伝統的な表現の方法を学びます。書を自己表現の有効的な一つの方法としてとらえ、豊かな芸術表現や活動ができるようにします。また、書の様々な表現に触れながら、書の文化的活動の体験を通して、豊かな感性を育むとともに芸術への関心を深めます。

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・書の表現の方法や形式、多様性などについて理解を深める ・書の伝統に基づき、創造的に表現するための技能を身に付ける 	
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に深く構想し、個性豊かに表現を工夫する ・作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉える 	
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情 ・感性を磨き、書の伝統と文化を尊重し、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度 	

使用教材

教科書： 教育図書 書Ⅲ

副教材：

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。

1学期	漢字の書の学習，篆刻
2学期	仮名の書の学習，漢字仮名交じりの書の学習
3学期	漢字仮名交じりの書の学習

備考

5年次に書道Ⅱを履修していること。

教科名	芸術科	科目名	美術			単位数
学年	6年 DP		DP Visual arts SL			3
(後期課程科目のみ)		学校設定科目	○	必履修科目		選択必履修科目

本科目の目標／伸ばしたい力

In DP Visual Arts students will experiment with a wide variety of genres and styles while exploring their own creative and cultural backgrounds. The course will focus on finding personal identity as well as understanding how the visual arts can affect society and the environment around us. Students will develop the ability to express their ideas for lifelong use.

DP 評価規準と評価方法

A : Analytical Thinking	Consider the theme from different perspectives/contexts. Research and analyze an artwork from different contexts. Analyze how artists created artworks related to the theme and style. Understand uses of medium, skill or techniques.	
B : Artistic Expression	Improve artistic medium, skills or techniques. Create an artwork that has a clear theme and intention. The style and expression of artwork are appropriate for the intention. Consider various ideas by drawings and experimentation and investigation.	
C : Communicating Through Art	Message to the audience. Able to reflect upon own and others' work. Explain artwork orally. (Presentation) Explain artwork in sketches, diagrams & writing.	
D : Developmental Process	Practice and explore materials/techniques. Schedule and reflection. Recording in a variety of styles. Explain improvements & changes compared to the previous artworks.	

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点 (MEXT 評価規準) と評価方法

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深める 意図に応じて表現方法を追求し、個性を生かして創造的に表す 	
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 造形的なよさや美しさ、独創的な表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどを考える 主題を生成し個性を生かして発想し構想を練る 自己の価値観を働かせて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深める 	
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に美術の創造的な諸活動に取り組む 生涯にわたり美術を愛好する心情 感性と美意識を磨き、美術文化を尊重し、心豊かな生活や社会を創造していく態度 	

使用教材

教科書： Visual Arts: Course Companion (Oxford IB Diploma Programme)

副教材： なし

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。

1 学期	Submit Comparative Study. Finish and refine all works of art, organize process portfolio, and write a curatorial rationale.
2 学期	Submit process portfolio. Set up exhibition. Give a presentation during the exhibition. Take pictures of the exhibition for IB submission.
3 学期	Come up with an experimental art group project through collaboration.
備考	
5 年次・6 年次開設の学校設定科目として扱う。	

2026/3/25 更新

教科名	外国語科	科目名	英語コミュニケーションⅢ		単位数
学年	6年		English Communication III		4
(後期課程科目のみ)		学校設定科目		必履修科目	選択必履修科目

本科目の目標／伸ばしたい力

習熟度に相応するレベルでの英語による言語活動を通して、書き手や話し手の意向などを読みとる能力を一層伸ばすとともに、英語を理解しようとする積極的な態度を育てることを目指します。生活言語能力にとどまらず、抽象的な概念操作が可能な学習言語能力の獲得を目指します。

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法

知識・技能	言語材料（文法、語彙、表現など）に対する理解や、4技能の定着を評価します。	小テスト、定期試験等
思考・判断・表現	学習した知識や習得した技能を生かして、目的・場面・状況に応じたコミュニケーションを行う力を評価します。	定期試験、プレゼンテーション等
主体的に学習に取り組む態度	外国語学習のおもしろさを実感して粘り強く考え、学習した知識や習得した技能を生かして積極的にコミュニケーションを取ろうとする態度について評価します。	プレゼンテーション、授業の振り返り等

使用教材

教科書： 教科書：CROWN English Communication III（三省堂）

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。

教科書の学習内容を踏まえて、英語を使って自分の意見を根拠とともに発信する学習を中心に行います。さらに語彙や表現の幅を広げます。様々な活動を通して英語力の定着をはかります。学習のテーマとしては以下を想定しています。（以下のテーマは CROWN English Communication III のものです。扱う題材が変更になる場合もあります。）

課	タイトル	題材／場面
L1	How Language Shapes the Way We Think	言語・思考／講演・学校生活
L2	Weak Robots	科学技術・社会／雑誌記事・地域での活動
L3	Fake News Is Everywhere: Beware!	情報・社会／論説文
L4	Beyond What Nature Intends	科学技術・生き方／雑誌記事・地域での活動
L5	How to Beat Procrastination	心理・行動／ブログ記事・学校生活
L6	Today's Treasure, Tomorrow's Trash	環境・消費社会／論説文・地域での活動
L7	Only a Camera Lens between Us	平和・国際貢献／雑誌記事・地域での活動
L8	Super Clone Cultural Properties	芸術・文化遺産／インタビュー・地域での活動
L9	Culture in the Animal Kingdom	動物・文化／論説文
L10	Does Money Make You Mean?	経済・社会心理／雑誌記事

週4時間授業がありますが、その内の2時間を日本人教員が担当し、観点B (Reading)と観点D (Writing)を中心に取り扱います。残りの2時間をネイティブ教員が担当し、観点A (Listening)と観点C (Speaking)を中心に授業を行います。

備考

この科目は選択です。ただし、習熟度に応じてクラスを複数設定しますので、オリエンテーション等で指示に従ってください。

教科名	外国語科	科目名	論理・表現Ⅱ			単位数
学年	6年		Logic and Expression II			2
(後期課程科目のみ)		学校設定科目		必履修科目		選択必履修科目

本科目の目標／伸ばしたい力

習熟度に相応するレベルでの英語による言語活動を通して、自分の考えなどを的確に書く能力を一層伸ばすとともに、英語で表現しようとする積極的な態度を育てることを目指します。生活言語能力にとどまらず、抽象的な概念操作が可能な学習言語能力の獲得が目標です。

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法

知識・技能	言語材料（文法、語彙、表現など）に対する理解や、2技能(Speaking, Writing)の定着を評価します。	小テスト、定期的試験
思考・判断・表現	学習した知識や習得した技能を生かして、目的・場面・状況に応じたコミュニケーションを行う力を評価します。	期末試験、プレゼンテーション、エッセイ等
主体的に学習に取り組む態度	外国語学習のおもしろさを実感して粘り強く考え、学習した知識や習得した技能を生かして積極的にコミュニケーションを取ろうとする態度について評価します。	プレゼンテーション、エッセイ、授業の振り返り等

使用教材

教科書： CROWN Logic and Expression II (三省堂)

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。

英語を使いながら様々なテーマについて学ぶ力と態度を伸ばします。社会科、数学科、理科、芸術など他教科からのアプローチを特に意識し、様々な問題について議論します。以下のような題材を取り扱うことを予定しています。（以下のテーマは CROWN Logic & Expression II のものです。題材は変更になる場合があります。）

課	タイトル	主な言語材料	題材／場面
L1	Dear Mayor,	希望／依頼／許可	人生・生き方／ディスカッション、手紙を書く
L2	Manga Find Ever-increasing Global Fans	感情を表す表現	漫画・芸術／ディスカッション、エッセイを書く
L3	Japanese Baths	忠告／必要／提案・勧誘	日本文化・異文化理解／ディベート、エッセイを書く
L4	Innovators of the World	時間的順序	人物・科学／ディスカッション、レポートを書く
L5	Don't Throw Us Away!	例証／分類・列挙	社会問題／ディスカッション、エッセイを書く
L6	Urban Development	空間配列・方向	都市計画／ディスカッション、エッセイを書く
L7	Food and Culture in the World	方法・様態／数量表現	料理・食文化／ディスカッション、エッセイを書く
L8	The Potential for E-Sports	賛成・反対	スポーツ／プレゼンテーション、ディスカッション、エッセイを書く
L9	All Gone?	原因・理由／目的／結果	生態系・環境問題／ディスカッション、エッセイを書く
L10	The "New Normal" at School	比較・対照／譲歩	教育／スピーチ、ディスカッション

備考

この科目は選択です。ただし習熟度に応じてクラスを複数設定しますので、オリエンテーション等で指示に従ってください。

教科名	外国語科	科目名	英語特講			単位数
学年	6年		Special English Seminar			2
(後期課程科目のみ)		学校設定科目	○	必履修科目		選択必履修科目

本科目の目標／伸ばしたい力

習熟度に相応するレベルでの英語による言語活動を通して、自分の考えなどを的確に書く能力を一層伸ばすとともに、英語で表現しようとする積極的な態度を育てることを目指します。生活言語能力にとどまらず、抽象的な概念操作が可能な学習言語能力の獲得を目指します。

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法

知識・技能	言語材料（文法、語彙、表現など）に対する理解や、4技能の定着を評価します。	定期試験
思考・判断・表現	学習した知識や習得した技能を生かして、目的・場面・状況に応じたコミュニケーションを行う力を評価します。	定期試験、スピーチ、プレゼンテーション等
主体的に学習に取り組む態度	外国語学習のおもしろさを実感して粘り強く考え、学習した知識や習得した技能を生かして積極的にコミュニケーションを取ろうとする態度について評価します。	スピーチ、プレゼンテーション、授業の振り返り等

使用教材

教科書： 使用しない

副教材： 受講者と相談のうえ決定

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。

学習内容は以下の通りです。選択したクラスによって、取り扱う内容が異なります。

○英文法演習

中学校から高校までの基本的な学習内容を幅広く学習（復習）します。

○英文読解演習

短文～超長文と呼ばれるものまで様々なレベルの英文に取り組みます。

○英作文演習

和文英訳から自由英作文、エッセイライティングまで様々な課題に取り組みます。

○英文要約演習

英文の要点を捉え、正しく端的に説明できるようなることを目標とします。

○入試問題・資格試験対策演習

大学入試の過去問や、各種資格試験の問題演習を行います。

○Advanced English Output Training

今まで学習したことを総合的に用いて、英語の表現力を高めます。

備考

この科目は選択です。ただし習熟度に応じてクラスを複数設定しますので、オリエンテーション等で指示に従ってください。

教科名	外国語	科目名	English A			単位数
学年	6年 DP		DP English A: Language & Literature HL			5
(後期課程科目のみ)		学校設定科目	○	必履修科目		選択必履修科目

本科目の目標／伸ばしたい力

- engage with a range of texts, in a variety of media and forms, from different periods, styles and cultures
- develop skills in listening, speaking, reading, writing, viewing, presenting and performing
- develop skills in interpretation, analysis and evaluation
- develop sensitivity to the formal and aesthetic qualities of texts and an appreciation of how they contribute to diverse responses and open up multiple meanings
- develop an understanding of relationships between texts and a variety of perspectives, cultural contexts, and local and global issues, and an appreciation of how they contribute to diverse responses and open up multiple meanings
- develop an understanding of the relationships between studies in language and literature and other disciplines
- communicate and collaborate in a confident and creative way
- foster a lifelong interest in and enjoyment of language and literature

DP 評価規準と評価方法

A : Knowledge and understanding	mock essays using IB published criteria, classroom discussion, interviews with teacher	
B : Application and analysis	mock essays using IB published criteria, classroom discussion, interviews with teacher	
C : Synthesis and evaluation	mock essays using IB published criteria, classroom discussion, interviews with teacher	
D : Selection and use of appropriate presentation and language skills	mock essays using IB published criteria, classroom discussion, interviews with teacher	

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点 (MEXT 評価規準) と評価方法

知識・技能	言語材料 (文法, 語彙, 表現など) に対する理解や, 4 技能の定着を評価します。	
思考・判断・表現	学習した知識や習得した技能を生かして, 目的・場面・状況に応じたコミュニケーションを行う力を評価します。	
主体的に学習に取り組む態度	外国語学習のおもしろさを実感して粘り強く考え, 学習した知識や習得した技能を生かして積極的にコミュニケーションを取ろうとする態度について評価します。	

使用教材

教科書:

副教材:

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。

備考

5 年次・6 年次開設の学校設定科目として扱う。

教科名	外国語	科目名	English B			単位数
学年	6年 DP		DP English B HL			5
(後期課程科目のみ)		学校設定科目	○	必履修科目		選択必履修科目

本科目の目標／伸ばしたい力

1. Communicate clearly and effectively in a range of contexts and for a variety of purposes.
 2. Understand and use language appropriate to a range of interpersonal and/or intercultural contexts and audiences.
 3. Understand and use language to express and respond to a range of ideas with fluency and accuracy.
 4. Identify, organize and present ideas on a range of topics.
- Understand, analyze and reflect upon a range of written, audio, visual and audio-visual texts.

DP 評価規準と評価方法

A : Oral skills	Prepared speeches, impromptu speeches, classroom discussion, presentations	
B : Receptive skills	Reading literary and non-literary texts, comprehension tests	
C : Writing skills	Production of various authentic text types online and by hand, grammar and proofreading tasks, study of idioms, quizzes, tests, essays	

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点 (MEXT 評価規準) と評価方法

知識・技能	言語材料 (文法, 語彙, 表現など) に対する理解や, 4 技能の定着を評価します。	
思考・判断・表現	学習した知識や習得した技能を生かして, 目的・場面・状況に応じたコミュニケーションを行う力を評価します。	
主体的に学習に取り組む態度	外国語学習のおもしろさを実感して粘り強く考え, 学習した知識や習得した技能を生かして積極的にコミュニケーションを取ろうとする態度について評価します。	

使用教材

教科書:

副教材:

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。

		Topic	Contents	Allocated time
Y 1 (5 th)	Semester 1	Orientation	Introduction to class, exams, study methods etc	60 classes
		Text Type Introduction	formal letter, blog, review, essays, official report etc	
		Identities	1. Citizens of the world 2. Belief and identity 3. Beauty and health	
		Literature	Short stories	
		Individual Oral Practice	Practice based on short stories	
		Paper 1 Practice	Writing different text types: blog / formal letter / interview	
		Summative Assessment	A Oral Assessment B Reading comprehension (paper 2 mock) C Written Assessment (paper 1 mock)	
	Semester 2	Human Ingenuity	1. Future Humans 2. Technology and human interaction 3. Redefining art	65 classes
		Experiences	1. Pilgrimage 2. Extreme sports	

			3. Migration	
		Literature	Book 1	
		Individual Oral Practice	Practice based on The Giver	
		Paper 1 Practice	Writing different text types: review / guideline	
		Summative Assessment	A Oral Assessment B Reading comprehension (paper 2 mock) C Written Assessment (paper 1 mock)	
	Semester 3	Sharing the Planet	1. Ending poverty 2. Climate change 3. Power to the people	35 classes
		Literature	Short Stories / Speeches	
		Paper 1 Practice	Writing different text types: speech	
		Summative Assessment	A Oral Assessment B Reading comprehension (paper 2 mock) C Written Assessment (paper 1 mock)	
	Y 2 (6th)	Semester 1	Social Organization	1. Minorities and education 2. Partners for life 3. The future jobs
Literature			Book 2	
Individual Oral Practice			Practice based on Animal Farm	
Summative Assessment (Predicted Score)			A Oral Assessment B Reading comprehension (paper 2 mock) C Written Assessment (paper 1 mock)	
Semester 2		Review	1. Review of the 5 themes 2. Review of different text types 3. Review of vocabulary, idioms and grammar	45 classes
		IB External Assessment (November)		
備考				
5年次・6年次開設の学校設定科目として扱う。				

教科名	国際教養	科目名	国際 A・B			単位数
学年	6年		Global Liberal Studies A・B			2/1
(後期課程科目のみ)		学校設定科目	○	必履修科目		選択必履修科目

本科目の目標／伸ばしたい力

国際社会に出るにふさわしい人間として、既存の教科の枠を超えた幅広い分野に関心を持ち、かつ関心を持つ分野における深い知識を身につける。

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法

知識・技能	講座ごとに人間理解・国際理解・理数探究の視点を通して、必要な知識及び技能を身につけ、取り組むテーマに関わる概念を形成し、その意義や価値を理解しているか。	
思考・判断・表現	講座ごとに人間理解・国際理解・理数探究の視点を通して、問いを見出し、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現をしているか。	
主体的に学習に取り組む態度	講座ごとに人間理解・国際理解・理数探究の視点を通して、学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いの意見を尊重しあい、深い思考を実現できているか。	

使用教材

教科書：

副教材：

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。

備考

教科名	国際教養	科目名	国際教養／ISS 課題探究 I・II・III	単位数
学年	1～6年		Global Liberal Studies; ISS Inquiry Project I・II・III	1

本科目の目標／伸ばしたい力

- 〈1年〉 様々な事柄の「つながり」を意識して学習する。異なる文化・環境に生きる人々に関心を持ち、それらに対する耐性を養う。
- 〈2年〉 様々な人が生きている社会と自分との関わりを客観的にとらえ、他者との適切なコミュニケーションの方法を身につける。
- 〈3年〉 様々な現代社会の課題について情報を集め、自分たちとその課題の関わりについて考え、異なる文化・背景を持つ他者とも情報や意見を共有する。
- 〈4年〉 自分なりの視点で現代社会の課題を見つけ、調査・探究し、現実の社会に自らアプローチする。
- 〈5年〉 異なる文化・環境を持つ他者と課題を共有し、英語でディスカッションすることができる力を身につける。
- 〈6年〉 社会にとって意義ある問いを立て、それに対して何らかのアクションを起こすことを目指す。また、母語でも外国語でも、異なる文化・背景を持つ他者と自分たちの社会の課題について対話し、相互協力体制を築けるような姿勢・力を身につける。

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法

知識・技能	1～3学年で開設されている「国際教養」の時間は、学習指導要領では「総合的な学習の時間」に対応します。 4～6学年で開設されている「ISS 課題探究 I～III」の時間は、「総合的な探究の時間」に対応します。数値による評価・評定は行われず、記述による評価がなされます。 国際教養群に含まれる各教科の科目に関しては、各科目で観点を設け、数値による評価・評定を行っています。	
思考・判断・表現		
主体的に学習に取り組む態度		

使用教材

教科書：

副教材：

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。

- 1年 「国際教養」
- 2年 「国際教養」
- 3年 「国際教養」
- 4年 「ISS 課題探究 I」、「Global Issues」、「英語以外の言語」
- 5年 「ISS 課題探究 II」「Global Issues」「英語以外の言語」
- 6年 「ISS 課題探究 III」「国際 A」「国際 B」

上記の時間の他に、1・3・5年のワークキャンプ I・II（国内）・III（海外）・各学年や教科で実施されるフィールドワークも学習内容に含まれます。

1年から3年では、4年次において PP（パーソナルプロジェクト）を完成させるためのスキルを身に付ける学習活動を行います。また4年次 PP 完成後は、5・6年の課題探究を充実したものにするための学習活動を行います。さらに、4・5・6年の「ISS 課題探究 I・II・III」では、学年の枠を越えた形態での探究活動も行います。

備考

教科名	国際教養	科目名	ISS 課題探究 I・II・III (総合的な探究の時間)			単位数	
学年	4・5・6年		ISS Inquiry Project I・II・III(Period for Inquiry-Based Cross-Disciplinary Study)			1	
(後期課程科目のみ)		学校設定科目		必履修科目		選択必履修科目	○

本科目の目標／伸ばしたい力

〈4年生：Personal Project〉

- ・生徒個人に特化したものを探究する。
- ・何に焦点を当てたいか（既存の興味または新たな興味）、どのように目標を達成するかを選択する。
- ・探究、行動、振り返りのプロセスを通して、ATL スキルを強化する。
- ・成果物に対して自分なりの成功規準を設定する。
- ・本当の意味で個人として創造的な成果物を生み出す。

〈5年生〉異なる文化・環境を持つ他者と課題を共有し、英語でディスカッションすることができる力を身につける。

〈6年生〉社会にとって意義ある問いを立て、それに対して何らかのアクションを起こす。

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法

知識・技能	探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解しているか。	
思考・判断・表現	現代的な諸課題から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現しているか。	
主体的に学習に取り組む態度	探究に主体的・協働的に取り組もうとしているとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとしているか。	

使用教材

教科書：

副教材：

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。

〈ISS 課題探究 I 前半〉 Personal Project

- ・MYP の学習の集大成として Personal Project に取り組む。
- ・社会にどう役立つのかを考えて課題を設定し、自分の力で調査し、分析し、作品やレポート、プロジェクトという形にする。

〈ISS 課題探究 I 後半/ ISS 課題探究 II / ISS 課題探究 III〉 総合的な探究の時間（課題探究）

- ・本校における探究学習の集大成として、2年間(実際には4年生後半から)かけて「課題探究」に取り組む。
- ・自分の問題意識に照らして探究課題を設定し、適切な方法で分析・考察を進め、論文にまとめる。

〈5年国際教養〉 海外ワークキャンプ

・学習領域「国際教養」の集大成として、海外で異文化に触れ、多様な社会・文化のあり方を知るとともに、自国の文化を再認識する。

- ・海外で多様な文化に生きる人々と現代的な課題について共有し、議論する力を伸ばす。

備考

4年生の「ISS 課題探究 I」（前半は Personal Project, 後半は課題探究）は、生徒全員が履修します。